

生理を持つ人が授業を受ける際の配慮に関する意見について

【ご意見・ご要望】(投稿日:2021年10月31日)

私は毎回の生理が大変重いです。産婦人科では月経困難症と診断されました。現在ピルを服用して症状を抑えていますが毎回の生理はとてつきついです。さらに PMS もあります。私はいつも生理前から生理期間中にかけて腹痛や倦怠感、気持ち悪さで動けなくなってしまう。寝込んで 1 日を過ごすこともままあります。立っている時はもちろん座っていることさえしんどい時もあります。また、PMS による鬱のせいで気分が塞ぎ込んで精神的に外出できない時もあります。ピルは決して安くないので金銭的に困窮した時に続けていけるかもわからないので、ピルがなくなった時にこれより酷い症状が出てしまわないかも心配です。

スタンダードな生理は 28 日に 1 回の周期で来るようですが、この計算だと年に約 13 回生理が来ることとなります。さらに、1 回の生理で私の場合大抵 3 日から 7 日はまともに動くことができません。この日数に変動があるのは様々な要因(精神的要因、気温、気圧、季節など)によってしんどさが複合的に変動するからです。平均をとって 1 回の生理で 5 日動けないものとするとならば、つまり 12 ヶ月の中で 2 ヶ月以上分普段通りには生活できない日があるのです。

このような状態の中で生理前・生理期間中になんとか大学に行ける日もあり授業を受けに行ったのですがその際教室が寒くて震えと冷や汗が止まらず早退せざるを得ない状態になることが何度もありました。(教室が寒いと感じたのは生理中には限りません。夏でも常に寒くカーディガンを持参しないと/しても寒すぎて授業に集中できません。)この時私は毎回(夏でも)長袖のブランケットを着用しており、室外と室内の気温どちらも気温に対応できるだけの自分でできる努力はしていたと思います。それにもかかわらず教室が寒いと感じたのは私の体調の問題だけではないと思います。

ちなみに私が早退した授業のうちの 1 つの例を紹介すると、講義をしている先生は男性でした。受講している学生の中で男性は半袖や薄手のシャツの人が多く、女性はカーディガンを羽織っていたり長袖を着ている人が目立ちました。その授業で TA の方は女性なのですが、その方もカーディガンを羽織っていらっしゃいます。

教室が寒いという話は私の身の周りの女性の友人たちに聞いても共感してもらえることが多いです。みんなカーディガンを持ってきて防寒対策をしているという話や、カーディガンを忘れると大学が寒すぎると腹痛などが起こってしまい/腹痛にならないか心配ということもあり講義への集中度が下がってしまい、取りに帰るか悩むという話も聞かれました。

京都大学の教室の温度設定をどのような基準で行なっているかというのは存じませんが、以下にある本の引用を紹介します。(この事例が指しているのはおそらく日本ではありませんが、日本に関しても同様のことが言える・参考にできると思います。またここで想定されている場所はオフィスですが大学にも十分当てはまると思います。)

オフィスの標準室温は 1960 年代に、47 歳で体重 70 キロの男性の安静代謝率を基準として設定することに決まった。しかし、最近の研究によって、「軽度の事務を行う若い女性の安静代謝率」は、同じ職種の男性の標準値よりも「だいぶ低い」ことが明らかになった。つまり、この基準(上記の標準室温の基準のことです)では女性の実際の安静代謝率が実際より 35% も高く見積もられており、現在のオフィスの気温は、女性にとっての底気温より平均で 2.8 度も寒くなっているのだ。(中略)このようなデータ・ギャップは不公平をもたらし、業務にも支障をきたす一職場環境が快適でなければ、従業員の効率は上がらないからだ。だが職場におけるデータ・ギャップは不快適なオフィス環境や非効率につながるだけでは済まない。場合によっては慢性疾患につながる恐れもある。

(『存在しない女』より)

以上のことを踏まえて以下の 3 つを提案します。

①教室及び大学構内施設(図書館など)の気温についての調査を行うこと

現在の温度で学生がどのような意見を持っているのかの調査を行う必要があると思います。また、この際平均値を見るのではなく、京都大学は男子学生の比率が圧倒的に高いこと、男女で学生が使うエリア・校舎・教室に差が生じる可能性があること、体調は一定ではなく時として変わることを踏まえた上で行なって欲しいです。その上で調査結果及び室温をどのような基準で何度に定めているかを公開していただきたいです。

②(仮に現行の室温を維持しようとする時)暖をとる用品の貸し出しを行うこと

ブランケットなどの暖を取れる用品を各学部棟などで貸し出して欲しいです。また、この際自分の所属学部でしか借りられないのではなく、授業のある教室に近い学部で借りられるようにして欲しいです。また、1 限単位ではなく、昼休みなどを含め、大学にいる時間一度の手続きでどの場所でもずっと使用できるようにして欲しいです。また、返却する際も元の学部棟に返さなければならないのではなく、どこでも返却できるシステムにして欲しいです。

③生理前・生理期間中の講義をオンラインで後からでも視聴できるシステムを作って欲しいです。

今年度の前期まではオンライン授業で自宅でも授業を受けることができたため、生理前・生理期間中でも自分にとって過ごしやすい室温・体調で授業を受けることができました。しかし、現在は対面授業が始まり大学に行かないと授業が受けられず、しかもその授業教室は非常に寒いことが予測される…。そして実際行ってもさらに体調を崩して早退することもあるという状態で集中して授業を受けることができません。

生理は全員に起こりうる症状ではなく特定多数の人物にのみ起こり得ます。生理は特定の

人が必ず定期的に経験しなければならないものなのに、それによる欠席が他の全員に起こりうる風邪などの欠席と同様に扱われると、生理がある人となない人とで成績に偏りができる可能性があり、不平等だと思います。またやむを得ない理由による欠席によって聞きたかったのに受講できなかった/集中して受けられなかった授業の内容を知ることができないのは、教育の平等性が担保されていないと思います。

以上のことから生理前・生理期間中の講義をオンラインで自分の都合の良いタイミングで受講できるシステムできるだけ早く整備していただきたいです。また、その際後からの受講でも出席と扱われるようなシステムにして欲しいです。そして、生理はプライバシーに関することでもあります。しんどい時に休みうる/休んだ講義の担当教員全員に連絡することは更なる心労を負うことが予想されるため、1回1回個別に申請することなくいつでも見られるようにして欲しいです。

【回答】(回答日:2021年11月12日)

(回答部署:教育推進・学生支援部教務企画課)

貴重なご意見ありがとうございます。

すぐに何らかの対応をすることは難しいのですが、①及び②につきましては、今後の参考とさせていただきます。

また、③につきましては、現在のオンライン授業(オンデマンド型を含む)は新型コロナウイルス感染症対策の一つとして特例的に実施しているものです。一方でさまざまな理由から継続してほしいとのご意見もいただいておりますが、現在のところ、その方針については未定となっております。

なお、身体症状等によって授業受講などに支障がある場合は、保健診療所や学生総合支援センターでご相談ください。